〔研究ノート〕

文化財の活用を考える際のまなざしについて
――八尾市における市民との取り組みから――

和　泉　大　樹

Ⅰ　はじめに

本稿は，文化財の活用を考える際，「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「文化財を本来的価値と地域目線の価値に分けて思考すること」を意識することが，その活用を考える際，有効に機能する可能性があることについて，自分自身の経験からまとめた記録的な文章である。

筆者は，文化財や博物館を活かした観光振興や地域づくりに関する研究を進めていく中で，大阪府泉南市において，中世のタコ壺焼成窯が検出されている戎畑遺跡を表徴するタコ壺を活用して地域の活性化を志向した際，市内の小学校４校は地域学習（教育資源）という目的で「タコ壷づくり体験」を，岡田浦漁業協同組合は自身で展開する体験漁業や朝市などの集客に結びつけるPR素材（観光資源）にという目的で「タコ壷漁体験」を，市内のボランティア団体は自分たちの活動のための原動力（活動資源）としてライトアップイベント「せんなんタコあかり」に取り組んだが，この様相からは，「タコ壺」という同一資源であるが，活用に関わるアクター（行為主体）ごとに異なる目的，内容で取り組みを進めたということを論じたことがある[1)]。

また，山梨県南アルプス市に所在する六科丘古墳，物見塚古墳に，文化財保護法により保護される文化財の本来的価値に基づく教育委員会が設置した説明板と，例えば，「この六科丘古墳では，春には，桜が咲いてお花見もできますよ」，「ここに立ってむこうを見ると富士山がとてもキレイに見えます」などの文章の記載が見られる文化財保護法が法律により保護しようとする第一義的な価値ではない地域目線の価値が見られる地域の小学生が作成した説明板が併設されていることから，文化財に対する２者のまなざしがあり，文化財の保護・活用に地域からのまなざしが不可欠であるという観点からは，地域の方々が想う地域の魅力である地域目線の価値に関しても，大切な価値であるのではないかと論じたことがある[2)]。

平成29年（2017）２月に，大阪府八尾市において，称徳天皇と弓削道鏡という奈良時代の国家運営に様々な影響を与えた二人が関係した寺院である由義寺跡の塔基壇が発見された。この日本史上の大発見を契機として，筆者は，その活用について市民のまなざしからも検討すべく立ち上げられた，「歴史資産のまち‘やお’推進市民会議」（以下，「推進市民会議」と記述する）のファシリテーターを平成29年度（2017）から平成30年度（2018）にわたり，務める機会を得たが，そこでは，上記した「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「文化財を本来的価値と地域目線の価値に分けて思考すること」を意識しながら取り組みを進めてみた[3)]。そして，ファシリテーターとして関わるうちに，この２者への意識は，文化財の活用を検討していく上で有効に機能する側面があるのではないかと考えるに至った。

以下，このことについて，平成29年度（2017）の推進市民会議における取り組みを取り上げて，まとめることとする[4)]。

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

写真１　由義寺跡塔基壇周辺状況（南西から）

出所）『八尾市文化財調査報告82 大阪府八尾市所在 由義寺跡 遺構確認調査報告書―塔基壇の調査―』2018年，八尾市教育委員会，表紙からの転載

Ⅱ　由義寺跡の塔基壇発見の経緯と意味

八尾市は，大阪府の中央部やや東側に位置する。市の面積は41.72k㎡，人口は265,429人を数える中核市で[5]，100件を超える数の指定文化財，市域の60％以上が埋蔵文化財包蔵地になるなど，文化財の宝庫でもある。

このような全国有数の文化財の宝庫として知られる八尾市において，由義寺跡の塔基壇の発見という日本史上の発見があった。

『続日本紀』には，由義寺や由義宮は，称徳天皇と弓削道鏡により造営が進められたことが記されている。しかしながら，建物が残存しておらず，これまでは「幻の寺」として知られるところであった。

平成27年度（2015）からの東部大阪都市計画事業曙川南土地区画整理事業に伴う発掘調査により，平成28年（2016）9月に，由義寺に関連するであろうと考えられる東大寺式や興福寺式の瓦などが数多く出土したことから，平成28年（2016）11月から平成29年（2017）2月にかけて，改めて発掘調査が実施された[6]。

その結果，奈良時代の一辺が約20ｍの平面正方形の大規模な基壇が発見された。この基壇上に建つ塔の高さに関しては，「現存する東寺五重塔をしのぐ60ｍ級の高さをもっていた可能性」[7]が指摘されている。この史実を裏付ける発見は，考古学の分野だけではなく，建築史や古代史，仏教史などの分野においても重要なものとなり，新聞紙上に大きく取り上げられるなどし，注目を集めた。

以上のように，平成29年（2017）2月の発掘調査における塔基壇の発見により，これまで「幻の寺」であった由義寺跡の塔の存在が明らかになった。この塔基壇の発見は，我が国における奈良時代の歴史を考える上で極めて重要な発見となり，平成30年（2018）2月13日に国指定史跡となった。

今後，伽藍配置の解明などの学術的な成果はもちろんであるが，地域などが積極的に関わる

無断転載禁止

保存・活用への取り組みなどについても，期待されるところである。

Ⅲ　推進市民会議における取り組みについて

（1）推進市民会議の経過

平成29年（2017）2月に由義寺跡の塔基壇が発見され，平成30年（2018）2月13日に国史跡の指定を受けたことを契機として，その活用について，行政と市民のまなざしから検討すべく，市民目線の発想による意見を収集するために，八尾市教育委員会教育総務部文化財課は，推進市民会議を発足させて，その取り組みをスタートさせた。

推進市民会議による取り組みは，平成29年度（2017）から平成30年度（2018）の2年間にわたるもので，最終的には，平成31年（2019）3月に刊行された『八尾市歴史資産のまち‘やお’推進のための基本的な考え方』として結実している[8)]。なお，「2021年度からスタートする第6次総合計画の策定において，各部署の施策で歴史遺産を活用する方向性を示すものとして（中略）併せて第6次総合計画を上位計画として八尾市の歴史資産を保存・活用するためのマスタープランとなる「（仮）八尾市文化財保存活用地域計画」策定の基礎資料」[9)]として，位置付けられるものである。

先に記したように，本稿では，平成29年度（2017）の取り組みについて取り上げることとする[10)]。

推進市民会議における平成29年度（2017）の取り組みについては，合計5回のミーティング（うち1回はフィールドワーク）が開催されている。なお，推進市民会議は，歴史資産を活用した活動を行っている市民や公募による市民9名と市役所の公募職員3名の合計12名で構成され，筆者がファシリテーターを務めた。

また，推進市民会議と並行して，政策，情報・魅力発信，整備，産業，地域活動支援などの所管課を中心に11名で構成される庁内会議も合計5回，開催されている。

①　第1回「歴史遺産の活用とは？」

平成29年（2017）9月26日に開催されたミーティングでは，推進市民会議の役割，文化財の活用で意識すべき点，由義寺跡の発掘調査の成果などが話された。

ファシリテーター（筆者）からは，推進市民会議でなすべきこととして，「みなさん自身のお考えをお聞かせください」，「様々な可能性を披露してください」，「推進市民会議の取り組みを楽しんでください。そして，その楽しさをばらまいてください」という3点をお願いしながら，「文化財は関わる立場によって捉え方や関わり方が異なる」，「地域の中でその内容が知られるなど地域資源化のプロセスを経ることで文化財活用の可能性が広がる」，「本来的価値と地域目線の価値という2者があり，各々のバランスが不可欠である」ことなどを説明し，これらへの意識を促した。

また，八尾市教育委員会教育総務部文化財課からは，由義寺跡の特筆すべき点として「日本の正式な歴史書『続日本紀』に記載されている寺院である」，「称徳天皇と弓削道鏡という奈良時代の国家運営に様々な影響を与えた二人が関係した寺院である」，「都である平城京に次ぐ由義宮という副都の造営が進められていたことが明らかになった」ことなど，その本来的価値についての説明がなされた。

②第2回「八尾の歴史資産を見に行こう」

平成29年（2017）10月29日は，フィールドワークを行った。当日は，久宝寺寺内町・心合寺山古墳・高安千塚古墳群・由義寺跡などを見学し，現状の理解に努めた。

③第3回　グループワーク「もしも，わたしたちの日常に道鏡さんを取り入れるとしたら」

平成29年（2017）11月28日に開催されたミーティングでは，第2回フィールドワークの振り返りを行った後，由義寺跡の活用についての検

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

討を行った。

なお，グループワークについては，推進市民会議のメンバー12名を3つのグループに分けて行った。

④第4回　グループワーク「もしも，わたしたちの日常に道鏡さんを取り入れるとしたら」

平成29年（2017）12月18日に開催されたミーティングでは，前回のグループワークで検討をはじめた由義寺跡の活用について，継続してワークを行った。

⑤第5回 まとめ

平成30年（2018）2月21日に開催されたまとめでは，これまでのグループワークの成果をまとめた報告書が事務局より提示され，そのまとめ方などに関して，推進市民会議の12名が確認作業を行った。また，最終回ということもあり，各々から感想を頂いた。

（2）推進市民会議が創造した活用への思考

以上のプロセスを経て，創造された活用への思考についてまとめられた報告書の概要は，以下のとおりである。

①由義寺跡をどんな場所にしたいか

出発点となる「由義寺跡をどんな場所にしたいか」については，「ファミリーで楽しめる場所」，「地域から外から人が集まる場所」，「誰もが参加できる交流ができる場所（八尾を紹介できる場所）」というテーマがグループごとに提案された。

なお，具体的なイメージは，下記のとおりである。

□ファミリーで楽しめる場所
- お年寄り親子など，ファミリーが楽しめる。
- 道鏡の里（同郷の里）として打ち出す。
- 道鏡に親しみを持てるイベント・名産品を展開する。
- 当時の生活が楽しめる史跡。

□地域から外から人が集まる場所
- 散歩に行きたいと思える場所。
- 都があったということは，賑わいのある場所だった。
- ランニングしている人がふらっと立ち寄れる場所。
- 大きいので八尾市だけではもったいない。八尾市外の人も由義寺と分かると良い。
- 近所の人も喜ぶ公園がよい。防災公園も兼ねるとよい。
- イベント時以外は普通の公園。

□誰もが参加できる交流ができる場所（八尾を紹介できる場所）
- 人と人があって話をする場，好きな人が継続的に来られる場にしたい。
- 屋根もあって交流できるスペースなどがある場所。

以上を総じて，次のようなセンテンスでまとめられた。

人が集い，つながる場所。「古き」から「新しき」を考える場所。

そして，このことを実現するために提案された具体的な活用方法のアイデアは，文化財の本来的価値を紹介するための「活用のためのデザイン」と「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「地域目線の価値」を意識して創造された「活用方法」という形で，下記のとおり，まとめられた。

②活用のためのデザイン

文化財としての価値を紹介するための「活用のためのデザイン」については，以下のようにまとめられた。

なお，具体的なアイデアは，下記のとおりである。

無断転載禁止

□塔の規模を紹介するアイデア
・VRを活用して現地で実感。
・気球を飛ばす。
　→気球に乗って塔の高さを実感。
・八尾空港の活用。
　→空から由義寺全体を眺める。
・バルーンをイベント時に膨らませる。
　→バルーンを上げて高さを示す。
・塔再現写真コンテスト。
・大きな絵。
　→飛行機から見てもらえるようにする。
・プロジェクションマッピング。
・ARやCGなどの活用。
・地面に70mの塔の絵を描く。
　→夜はライトアップ。飛行機からも見えるようにする。

□塔の位置を紹介するアイデア
・20m × 20mの基壇を示す。
・高い見晴台の設置。
・Googleなどデジタルマップ上に塔を表示。
・基壇を見せる。

□歴史的事実を紹介するアイデア
・由義寺，由義宮の解明。
　→未調査地の発掘調査。
・解説版の設置。
・資料館の設置。
・ガイドによる説明。

□周辺資源との関係性を紹介するアイデア
・セスナ機による遊覧（八尾空港の活用）。

□その他，紹介するためのアイデア
・存在を気付かせるために。
　→国道170号の沿線区画の特殊緑化。
　　国道170号の高架から史跡看板を見せる。
　　鉄塔を活用する。
　　ゆるキャラを作る。
・七重塔を模した大きな風船。
　→イベント時に膨らませる。
・カラータイルで表現。
　→道鏡・称徳天皇・七重塔などをカラータイルで沿道に表現。

□環境整備
・お店，トイレ，休憩所の設置。
・飲食，休憩スペースの設置。
・駐車場の整備。
・大規模駐車場の整備。
・アクセス環境整備。
　→ルート説明板の設置。
　　道鏡通りの整備（JR志紀駅から由義寺）。
　　歴史街道としての道路整備。
　　道標の整備。
　　JR志紀駅を快速電車停車駅に。
　　近鉄山本駅からの道中で由義寺を紹介。
　　駅に案内板を設置。
　　バス停「由義寺跡」を設置。
・憩いの場。
　→花や芝生で地域の人が親しめる場に。
　　桜の植樹（玉串川からの桜ネットワーク）。
・道鏡橋の設置。
・道の駅の整備。

③活用方法

「活用方法」については，「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「地域目線」を顕著に意識することを促し，グループで検討していただいた。

ここでは，実現可能・不可能に関しては，とりわけ予算などに関しては，あまり問題とせずに，「地域的組織・団体」，「教育関係者」，「事業者」などの立場ごとの目線になって，また，「他の資源とのネットワーク」という観点から，自身が取り組んでみたいことを発想することに重きを置いて議論することを求めたため，各グループにおいて，比較的多くの意見の提出が見られ，議論が進んでいたのではないかという印象を受けた。

また，グループワークを観察していると，持論の展開はもちろんであるが，他のメンバーの

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

発言に耳を傾ける場面においても，各々，議論の場を楽しんでいるような感じを受けた。

なお，具体的なアイデアは，次のとおりである。報告書から転載して示した【図１～４】。

１）活動資源（地域的団体・組織）としての活用方法

イベント名	班	具体的なイメージ
95人での共同イベント	A	塔の建設の関わったといわれる人数で主催。
イベント	A	道鏡下駄とばし(距離を競う)。
		下駄をはいてのかけっこ。
		「道鏡人形」を担ぐだんじり。
	B	道鏡称徳パレード。
		古代から現代の音楽祭。
	C	月１回は定期的にイベントを開催する。
		道鏡にちなんだ人でつくる航空写真。
イベント（広さを活用）	B	手作り市。
		脱出ゲーム。
		マラソン大会。
コンテスト	A	「道鏡さ～ん！」コンテスト（遺跡の中で大声で叫ぶ)。
	B	美女・イケメン道鏡コンテスト。
他のイベントとの連携	A	史跡地から志紀自衛隊の花火を見る（自衛隊と連携)。
	B	八尾若ごぼうや河内木綿の販売もするとよい。
	C	久宝寺緑地のイベントなど市内の府施設と結びつける。
河内音頭	C	道鏡と踊ろう！：道鏡や八尾に縁のある人のお面をかぶって盆踊り。
	A	塔跡を囲んでの河内音頭の開催。
		道鏡物語を河内音頭（新制作）にする。
	B	由義寺跡もしくは近くの空き地で河内音頭をする。
		由義寺基壇の入った河内音頭を公共的な場所やラジオ、YouTube で発信する。
古代の宴の再現	A	当時の食べ物、服装を体験。
	B	由義寺では宴をしていたこともあり、その現代版を行う（大人酒盛り：お酒は道鏡にまつわる)。
子ども向け（子どもが来れば親も来る）	B	「道鏡まつり」：称徳天皇と道鏡の着ぐるみや移動動物園で子どもが来る。
		有名なゆるきゃらを呼んで、子ども向けの芝居をする。
	C	道鏡に関連したイベントを開催する（書初め大会：道鏡はしっかりした字を書いたことにまつわる)。

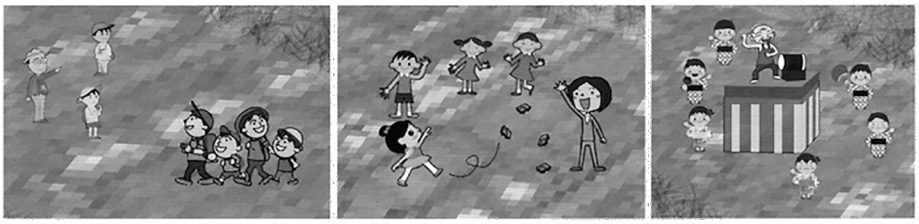
２）教育資源（教育関係者）としての活用方法

イベント名	班	具体的なイメージ
中高生の遠足ルートを教科書とリンクさせる	B	遠足で来てもらうなどで、市外の人にも八尾が歴史ある町だということを知ってもらいたい（八尾の歴史には教科書に出てくる人も登場する)。
花畑・写生大会	C	ひまわり畑、小学生が花風景の写生をしている横に基壇があるイメージ。
社会科見学、遠足	C	市内の小学校が見学して地域の歴史を知る。継続的に行う。

図１　『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書』の「活用方法」の記述（1）

出所）『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』，2018年，八尾市教育委員会，15ページから転載

無断転載禁止



活用イメージの一例（遠足／イベント：道鏡下駄飛ばし大会／河内音頭）

3）事業資源（商工業）としての活用方法

活用方法	班	具体的なイメージ
お土産品（開発）	A	八尾の名産を売る→自然食を売りにする。 ・「道鏡まんじゅう・ういろう」の開発、枝豆ビールとコラボ。 ・「道鏡焼き」おやきを作る→枝豆・若ごぼう入。 ・当時の食べ物の開発、PR（ex.飛鳥の赤米）。
食イベント（道鏡にまつわる）	B	食べ物や全国B級グルメ、お酒（お酒は道鏡にまつわる）。
	C	・イベント時に八尾の名産品を販売する。 ・枝豆の時期には恩智が近いので駐車場で販売（堀り取り体験＋ビールの場所にする）。 ・紅蓼のせんべいも販売。 ・市内の店が出店。 ・夏ならビアガーデン、冬ならキャンドルナイト等を行う。 ・道鏡をきっかけにした新商品のモンドセレクションや物産展の開催。
ゲーム	B	ポケモンGoでポケモンが出てくるポケストップにする。
		ゲームアプリに道鏡を入れてもらう。
	C	道鏡を探せ（AR使用）：ポケモンGoと同様の方法で道鏡さがし（50種類くらいの道鏡／聖徳太子関連史跡では聖徳太子Go）。
イベントとの連携	B	スタンプラリーやハイキング時にクーポンを発行し人の流れをつくる。
展示室で市内産業工業製品等（由義寺・道鏡関連商品）も展示・販売	C	（関連商品の開発：商工会議所の協力） ・道鏡歯ブラシ（来た人の御土産になる）。 ・道鏡饅頭、道鏡焼酎、道鏡ソフトクリーム。

活用イメージの一例（商品開発）

図2　『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書』の「活用方法」の記述（2）

出所）『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』，2018年，八尾市教育委員会，16ページから転載

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

4）他の資源とのネットワークによる活用方策

ネットワーク法	班	具体的なイメージ
史跡ネットワークの形成	C	コース設定：道鏡ゆかりの地を巡る（半日コース・山側コース）。 近隣地域とのネットワーク。
史跡ネットワークの形成（市内）	A	山麓、中腹コースの整備：信貴山口～志紀駅（市民の森、恩智神社経由）、近鉄八尾駅～恩智駅、河内国分駅～志紀駅、山本（バス）～心合寺山古墳、歴史民俗資料館（レンタサイクル）～志紀駅を巡るコースの設定。
		史跡連絡バス：心合寺山周辺⇔由義寺跡（日曜だけでも運行）
		ヘリコプターで八尾空港から市域一円を回る（道鏡、称徳天皇の恰好で乗る、カップルには記念日運行のサービス）。
		1日ハイキングコース設定（全ての道は由義寺へつながる）。
		野鳥観察しながらの史跡めぐり：森林育成、広葉樹保全の視点、荒廃している緑（ナラ枯等）実感。
	B	スタンプラリー：独自マップを作成して、道鏡に道案内をしてもらう。最後に景品がもらえる（スタンプラリーはスマホでもできる。各自で押してもらう紙形式でもよい。アナログ、QR コード、写真→巡った数に応じて景品と交換。）。
		歴史物語で繋げる（八尾の歴史のストーリー性や歴史ロマンで繋げる）。
		心合寺山古墳でお弁当が食べられる。
	C	道鏡にスポットをあてゆかりの地を巡る。 （半日コース：由義寺跡～JR 八尾～龍華寺跡～物部守屋～天童よしみ） （1日コース：山麓方面を設定）
史跡ネットワークの形成（近隣）	A	南河内世界遺産（予定）との連携（車利用）。
		羽曳野市の史跡との連携。
		国道で仁徳天皇陵とつながる。
ハイキングと一体化	A	四季の花を活かしたハイキングコース
	B	高安千塚～ハイキング（自然・花の観賞）。
水路・水で巡る八尾	B	玉串川で繋ぐと、自転車も走りやすい。（平地には水路、山地にはため池がある。）。
昔話を聞きながら歩く	A	八尾が舞台の民話、悲話など（本を説明しつつ巡り歩く）。
大和川の付け替えも紹介	C	昔の大和川の跡である段差を楽しむ散策（ブラタモリ）。
ルートマップ	B	サイクリングルートマップの作成。
		モデルコース：分かりやすい地図（高安千塚のコースも設定する）。
乗り捨て可のレンタサイクル	A	レンタサイクルの活用。
		パーク＆ライド方式の検討。
		健康サイクル PR。
	B	レンタサイクルの活用。 ※但し、歴史資産を巡るにも移動手段が課題。寺内町と心合寺山古墳で2時間ほどかかる。高安千塚古墳群は自転車では厳しい。

図3　『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書』の「活用方法」の記述（3）

出所）『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』，2018年，八尾市教育委員会，17ページから転載

無断転載禁止

ネットワーク法	班	具体的なイメージ
バスツアーガイド付き	C	由義寺跡を起点にした心合寺山古墳＋道鏡のバスツアー（あまり知らない人向け：食べ物とセットでひきつける）。 聖徳太子から入るツアー（教科書に出てくる人物の方が興味もつ）。
八尾の歴史ミステリーベスト10	B	キャッチーなタイトルにすることで、興味を持ってもらえる（大和川付け替え、古墳何百個）。

活用イメージの一例（水路で巡る八尾／サイクリングルートマップ）

5）その他の活用方策

活用方策	班	具体的なイメージ
関連市との連携	A	下野市と国史跡での連携（イベント交流、訪ね合う交流）。
	C	宇佐市・和気町等道鏡ゆかりの地との協力。
商業施設との連携	A	計画中の温泉施設の利用者と史跡見学者が相互に寄るしくみをつくる。
道鏡さんのイメージアップ	A	下野市では道鏡の良いイメージが浸透し、まちづくりに活用している。
	B	キャラクター化する（美男美女化するのもよい）。
		道鏡をかわいらしいイラストにし町中に貼っていく（配布でもよい）。
		歴史を曲げない範囲で道鏡にまつわる良い話（地域創生や公共事業を進めたこと）を広める。
情報発信	A	今できるイベントを市民に知らせる。
	B	由義寺を知ってもらうために、公共電波やYouTubeで発信する。
		町会で話題になっており、多くの人が活用に期待している。
		歴史物語のチラシを作って発信する。
		駅など人の集まる場所にリーフレットやポスター、マップなどを置く（駅にあるとふらっと取れる）。
		駅にまち歩きコーナーを設置する。
	C	検索ワードやクイズを掲載するなどホームページを閲覧させる工夫をする。
		動画を作成する。
		図書館に道鏡コーナーをつくる。
		駅にPRコーナーをつくる。

図4　『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書』の「活用方法」の記述（4）

出所）『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』，2018年，八尾市教育委員会，18ページから転載

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

写真２　推進市民会議の様子

（平成29年（2017）12月18日：筆者撮影）

（３）小結

以上のような内容で報告書にまとめられ，平成29年度（2017）の推進市民会議は結びとなった。なお，まとめのミーティングであった第５回のミーティングにおいて，メンバーの方々は，推進市民会議に参加した感想を以下のように記している[11)]。

・価値の話を聞いて，本来的価値をより高める必要があると感じた。

・市内の歴史資産をすべて知らなかった。心合寺山古墳も初めて行った。市民の考えも身近に聞けて勉強になった。

・市民の思いが聞けてよかった。地域愛がないと意味がない。愛着による保護というのはその通りだと思う。

・初めて市民会議に参加して勉強になった。歴史資源が活用資源になるのに時間がかかるのも知ることができた。イベントはいつできるか分からないが，事業資源は少しでも早くした方がいいと思う。しおんじやまの学習館でも売れるようになったらいい。

・地元町会として事務局から参加を依頼されて熱い思いがなく参加した。本来的価値は感じていない。町会でも話題になるが，意識は低い。箱物は行政頼りではいけない。大阪城や御堂筋では寄付金でできたものがある。行政だけでなく，民でどうお金を集めていくかが必要。あとは地域の意識をどう成熟させていくかが大事。

・色々アイデアが出てよかった。小学校の総合学習でもこういうテーマで考えてもらうと，家で保護者に話して関心を増やせると思う。

・地域資源から活用資源へとなるということで，昔からこの辺りにあるという話があったが，出てきたことで意識が変わった。塔は出

無断転載禁止

たが，北側にはどういう計画があるか。本堂が出てくると盛り上がるのでやってほしい。

・アイデアがつきなかった。勉強になった。注目されているところなので，これをきっかけに市民会議をしたことをPRするなどしながら，活用資源として利用に結びつくといい。

先に記したように，ファシリテーターを務めることとなった筆者は，「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「文化財を本来的価値と地域目線の価値に分けて思考すること」を意識しながら取り組みを進めたが，このことは，歴史にそれほど興味のない方々も意見などを述べやすくなるのではないか，身近な発想で考えていただけるのではないかという観点から導入したものであった。

結果，ミーティングでは議論が深まり，多くの意見が提案された。このことは，「色々アイデアが出てよかった」や「アイデアがつきなかった」という感想が見られたことからも明らかであろう。「この文化財をどう活用しますか」と問われると，歴史的なまなざしから考えることに集中して，人によっては意見に窮することがあると考えられるが，「ボランティアなどに関係する地域的団体は」，「学校などの教育関係者は」，「商売を営む事業者などは」というように考える立場を与えることによって，文化財（資源）からのベクトルで考えるのではなく，立場（活用する人）からのベクトルで考えることとなり，歴史に興味・関心がない，難しいという印象を持している人でも，比較的意見を提出しやすくなり，議論の活発さが増したのではないかと考えられるのである。

また，「価値の話を聞いて，本来的価値をより高める必要があると感じた」や「本堂が出てくると盛り上がるのでやってほしい」など，本来的価値の追求や期待などの意見も見られた。

前者の感想では，今まで以上に「より高める」という表現がなされているが，地域目線の価値の豊富な様に直面し，「地域目線の価値にとって変わられないように，負けないように，本来的価値をしっかりと守らなければならない」，あるいは，「さらに多くの地域目線の価値が提出されるよう本来的価値を高める必要がある」という意味にも取れようが，いずれにせよ，本来的価値と地域目線の価値の２者を提示することにより相乗性が生じているものであると考えられる。後者については，さらなる大発見，エビデンスの確認というニュアンスを含むもので，発掘調査の継続を望むものである。活用を考えるプロセスにおいて，更なる本来的価値の追加・拡充を望む声が生じたものと考えられるのである。

Ⅳ　まとめ

推進市民会議へファシリテーターとして関わりながら，「立場ごとに文化財の活用へのまなざしが異なること」や「文化財を本来的価値と地域目線の価値に分けて思考すること」を意識しながら取り組みを進めたが，その結果，事前に予測していたとおり，歴史にさほど興味のない方々も意見などを述べやすくなったのではないかと考えられた[12)]。

また，今まで以上にその価値を追求する，期待するなど，本来的価値へのまなざしにも変化が見られた。本来的価値と地域目線の価値をセパレートして思考するプロセスを経ることは，本来的価値を際立たせることにつながっている可能性があるのではないかと考えられた。

以上，文化財の活用を考える際，上記のようなことを意識することは，歴史にあまり関心がない人への入り口として機能する，また，地域目線の価値の創造は，本来的価値の追求・期待につながるという側面で有効に機能する可能性が見出された。

〔謝　辞〕

八尾市教育委員会教育総務部文化財課の渟斎氏，足立淳志氏，藤井淳弘氏には，ファシリテーターの機会を与えていただきました。また，多くをご教示いただき

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 56 No. 2

ました。ありがとうございました。記して感謝します。
株式会社総合計画機構の濱口和雄氏・今井まゆみ氏・友國慎也氏には，様々な工夫をご提案いただき取り組みの進行をサポートしていただきました。ありがとうございました。記して感謝します。

注

1）和泉大樹「遺跡の観光資源化に関する研究」『月刊考古学ジャーナル』特集：観光考古学Ⅳ（No.732），2019年，ニュー・サイエンス社，45-46ページ。

2）和泉大樹「文化財における２者の眼差し―山梨県南アルプス市の文化財説明板から誘発された思考―」『論集 葬送・墓・石塔』狭川真一さん還暦記念論文集，狭川真一さん還暦記念会，2019年，757-766ページ。

3）歴史にさほど興味のない方々も意見などを述べやすくなるのではないか，身近な発想で考えていただけるのではないかという観点から導入したものであった。

4）平成29年度（2017）と平成30年度（2018）の２年にわたり継続された推進市民会議は，前者は由義寺跡の活用についてケーススタディ的にまとめたもの，後者はその成果を踏まえて市域のさまざまな文化財を素材に歴史ストーリーとしてまとめたものである。両者は積み上げられた一体的な成果ではあるが，各々の目的は異なり，メンバーにも異なりが見られる。本稿では，これら２者のうち，より顕著に「立場ごとに文化財活用へのまなざしが異なること」や「文化財を本来的価値と地域目線の価値に分けて思考すること」ということを意識しながら取り組みを進めたという観点から，前者を取り上げて論じた。

5）八尾市HP「八尾市の人口関係データ一式」https://www.city.yao.osaka.jp/0000036738.html（2020.11.03.アクセス）
人口は令和２年９月末日現在のデータ。

6）経緯については以下を参考に記述した。
『大阪府八尾市所在　由義寺跡―『続日本紀』に記された巨大な塔を持つ古代寺院―』2017年，八尾市教育委員会教育総務部文化財課

7）箱崎和久「附論 東弓削遺跡発見の基壇遺構について」『八尾市文化財調査報告82 大阪府八尾市所在由義寺跡 遺構確認調査報告書―塔基壇の調査―』2018年，八尾市教育委員会教育総務部文化財課，67ページ。

8）『八尾市歴史遺産のまち‘やお’推進のための基本的な考え方』，2019年，八尾市教育委員会教育総務部文化財課
なお，推進市民会議における平成29年度（2017）の取り組みに関しては，以下の冊子にまとめられている。
『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』，2018年，八尾市教育委員会教育総務部文化財課

9）前掲注８）『八尾市歴史遺産のまち‘やお’推進のための基本的な考え方』２ページ。

10）この取り組みについては，下記を参考に記した。
前掲注８）『平成29年度歴史資産のまち‘やお’推進市民会議報告書　歴史資産のまち‘やお’について市民のみなさんが考えてみました…事例研究：由義寺跡を活用していくためには』

11）前掲注８）『八尾市歴史遺産のまち‘やお’推進のための基本的な考え方』24ページ。

12）実際に活用するとなると可能なことと不可能なことはきちんと精査される必要があることは言うまでもない。あくまでも，活用を思考する場に積極的にコミットする装置として有効であるという意である。また，ここでの取り組みは，本来的価値を軽視したものではない。本来的価値が第一義的価値であることは言うまでもない。

（2020年11月６日掲載決定）

無断転載禁止